

二見いすず

今月のドクタートークは、「甲状腺疾患」についてお送りしています。

お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩（なかじょう あきひろ）ドクターです。

中条さん、どうぞよろしくお願いいたします。

中条哲浩Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は甲状腺の働きについてお話しいただきました。

甲状腺は、体の代謝に関わるホルモンである甲状腺ホルモンをつくり、
保存して、分泌することができる臓器であること。

そして甲状腺ホルモンの量は適正に保たれていることが大切で、
多すぎても少なすぎても、体に支障をきたすということでした。

今週は何についてお話しいただけますか？

中条哲浩Dr.

甲状腺ホルモンを過剰に分泌してしまう病気、バセドウ病についてお伝えします。

二見いすず

分かりました。どうして甲状腺ホルモンを過剰に分泌してしまう
状態になってしまうのでしょうか？

中条哲浩Dr.

バセドウ病は自己免疫疾患の一つです。

自己免疫疾患というのは、本来ならウイルスなどから体を守る免疫が、
自分の臓器や細胞を攻撃してしまう病気です。

二見いすず

なにかが原因となって、自分の免疫が自分を攻撃するのですか？

中条哲浩Dr.

自己免疫疾患の原因は完全には解明されていませんが、家族内での発生つまり

遺伝的要因があることは分かっています。恐らく、遺伝的要因と環境的要因の両方が関与していると思いま
す。

バセドウ病自体は女性の方がなりやすいですが、

男性、女性含めて家族にバセドウ病の方がいらっしゃったら、気をつけるようにしてください。

二見いすず

バセドウ病になると、どのような症状が出るのでしょうか？

中条哲浩Dr.

代表的なものは、心臓がドキドキしたり、指先がふるえたり、体重の減少、汗かきになる、階段を上がると息が切れるようになる、眼球が出る などがあります。これらの症状が最近多いと感じたら、早めに受診するようにしてください。

二見いすず

治療はどのようなことをするのですか？

中条哲浩Dr.

最初はお薬での治療です。ホルモンを作りにくくする抗甲状腺薬を服用します。通常は 2 年くらい服用し、副作用などの問題がなければそのままお薬を継続することでホルモンをコントロールできる患者さんもいらっしゃいます。また、中にはかなり良くなってお薬をやめることができる方もいらっしゃいます。

二見いすず

薬でのコントロールが難しいと、別の治療になるのでしょうか？

中条哲浩Dr.

その場合は放射線治療か手術になります。ただ、放射線治療は効果がでるのに時間がかかりますので、急いでコントロールしたい場合は手術になります。手術では、甲状腺をすべて取る、いわゆる全摘を行います。

二見いすず

でも甲状腺をすべて取ってしまうと、甲状腺ホルモンが出ないので、困ってしまいますよね。

中条哲浩Dr.

はい。だから甲状腺ホルモン剤を内服してホルモンを補充します。補充する薬、つまりホルモン剤には、副作用がほとんどありませんので安心です。

二見いすず

よく分かりました。
今月は「甲状腺疾患」についてお送りしています。
お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩ドクターでした。
中条さん、ありがとうございました。

中条哲浩Dr.

ありがとうございました。